

070209その他の水産業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物 (小)	事故 の 型	労働者 の 規 模
2022	7	10 ～ 12	釣り客が落とした日よけのパラソルを拾うため、被災者は同僚とともに船でパラソルが落ちた場所まで向かった。当該場所に着き、被災者は素潜りでパラソルを探しに行ったが、被災者が浮上してこないことを不審に思った同僚が助けを呼び、その後駆け付けたダイバーが海底を確認したところ、水深16メートルの海底で横たわっている被災者を発見した。その後、救急に連絡したが、死亡が確認された。潜水具、命綱等なし。	713	10	1 ～ 9
2022	11	8 ～ 10	被災者は川に仕掛けていたさけ捕獲用の網をジブクレーンで吊り上げ、旋回し、河川敷にある木枠の中に入れる作業を行っていた。網を手繰り木枠に誘導するため、網に近づいたところ、網内に残っていた石（直径30センチ、重さ20キロ程度）が落下し、被災者の頭頂部に当たり、脳挫傷により死亡したものの。	372	4	1 ～ 9
2020	7	14 ～ 16	沖合にある養殖用の生け簀の応急措置を行うため、潜水器を装着して潜水作業を行っていた。10分間経過しても浮上しないため引き揚げたところ、圧力調整器が外れた状態で意識不明の被災者を発見したものの。	713	10	1 ～ 9
2018	11	12 ～ 13	被災者は海上で浮沈式イケス（20m×20m）の周囲に設置されている浮き（60cm×120cm）を清掃する作業をしていたが、同僚が被災者の姿が見当たらないことに気付き搜索したところ、作業場所のすぐ脇の海面にうつぶせで浮いている状態で発見されたものの。救出後病院に搬送され死亡が確認された。被災者は自身で紐を引っ張り膨張させるベルトタイプの救命胴衣を着用していたが発見の時救命胴衣は膨張していなかった。	391	10	30 ～ 49

2017	1	8 ～ 9	被災者は海中に設置された生簀内で潜水器を用いて潜水作業を行っていたが、当該生簀内の海面に浮かんでいる状態で同僚に発見された。被災者は人工呼吸等の措置を受けたが意識はもどらず、その後救急搬送されるも搬送先の病院にて死亡が確認された。	713	10	～ 9	1
2017	3	16 ～ 17	作業用筏を曳航中、強風のため臨時に筏を止める場所を頼み、係留させる作業員をボートで迎えに行く途中、海に転落した。	239	10	～ 9	1
2017	6	10 ～ 11	被災者は、フォークリフトで魚のアラを岸壁沿いにあるゴミ捨て場へ運んでいたところ、フォークリフトごとコンクリートの岸壁から2.75メートル下の海底に転落し、フォークリフトと海底に挟まれ死亡した。	222	1	～ 29	10
2017	11	6 ～ 7	ホタテの養殖のため、早朝、漁船（7.9トン）に代表者ら3人が乗り込み、漁港を出港し、約1.5km沖の養殖場所に到達したとき、被災者がいないことに気づいた。後日、同漁港の近くで遺体で発見された。	239	10	～ 9	1
2016	1	16 ～ 17	漁港において、養殖場に行った船から、余ったえさ袋（1袋20kg）を43袋岸壁に設置された荷物昇降設備（電動ウインチで昇降するもの。積載荷重2トン。）に積卸した。その後、被災者ほか1名は荷物昇降設備に乗り移り別の作業員がボタン操作し引き上げていたところ、電動ウインチが脱落して被災者の頭部に直撃した。	214	4	～ 9	1
2015	4	21 ～ 22	22時10分頃、作業員が養殖池に用具を取りに行ったところ、被災者が養殖池にうつ伏せで倒れているのを発見したもの。なお、被災者のそばには一輪車があった。被災者は養殖池横の資材倉庫に住み込みであり、南側のスロープの縁に砂が残っていたことから、就業時間前に重機に付着した砂をかき落とし、一輪車で運搬し、養殖池内に捨てようとして、スロープから墜落して海水に溺れたものであると推定される。	713	10	～ 9	1
2015	12	16 ～	平成27年12月4日（金）午後4時頃、海上にある牡蠣の養殖用の筏上において、作業終了後、被災者が筏の側に停めていた船舶の前後に固定していたロープを外したところ、風で船舶が筏から離れ、被災者が船舶を掴もうと	419	10	～	1

		17	した際、筏と船舶との間に転落し、約1時間20分後に心肺停止の状態で見つかったが死亡したもの。			9
2014	2	15 ～ 16	被災者は、カキ筏監視船に乗船。当日はカキ筏の標識灯の電池交換作業が予定されていた。夕方、被災者が乗船していた船のみが発見されたため、海上保安部に救難要請。溺死している被災者が発見された。尚、発見時被災者はライフジャケットを着装していた。	239	10	1 ～ 9
2014	9	9 ～ 10	海上でホタテ移植作業中、採捕場所に向かって航行している船の側面で待機していたところ、波を受け、大きく船体が動揺し、海中に転落した。	239	10	50 ～ 99
2014	10	7 ～ 8	ボンベ等を用いて潜水し、マグロ養殖用のいけすの点検作業中、海底に沈んでいる被災者が発見された。	713	10	10 ～ 29
2014	12	6 ～ 7	漁港を出港した際、南下してきた砂利運搬船と衝突し、転覆。被災者ら2名が死亡した。	239	18	1 ～ 9
2013	4	12 ～ 13	被災者は、養殖魚の入った生けすの係留ロープの補修作業のため、岸壁を歩行中、高波にさらわれ海中へ投げ出され溺死した。	713	10	10 ～ 29
2013	3	16 ～ 17	カキ打ちを終え、作業場の掃除をしていたところ、その日、休んでいた中国人研修生が急に2階から降りてきて、手に持っていた包丁やスコップで次々と同僚を殴りつけた。同僚が次々と襲われている間に外へ出て逃げたが、道路の中央で追いつかれ、頭部をスコップで何度も殴られ死亡した。	911	90	10 ～ 29
2013	1	16 ～ 17	被災者は、事業場所有の船に箱船を積み、海苔養殖場に海苔の消毒作業のために出向いた。当該場所で箱船を降ろし、海苔網を引き上げて箱船の薬槽に浸け、再び養殖場に戻す作業を行っていたところ、何らかの原因により箱船がバランスを崩し、海に転落し溺死した。	713	10	1 ～ 9
		10	被災者は、自ら操縦する船でベルトコンベヤーを用いて生け簀（す）内に餌			10

2012	2	～	を撒く作業を行っていた。作業中に被災者が見当たらなくなったため、僚船	239	10	～
		11	が海を捜索していたところ、海底で発見された。			29
2012	9	～	海上で作業船に取付けられた牡蠣クレーンを使用し、筏につり下げられた牡	219	4	1
		7	蠣を海面上につり上げる作業を行っていたところ、巻き過ぎによって巻上げ			～
			用ワイヤロープが切断し、つり上げていた牡蠣と吊り具金具が落下した。そ			9
			の際、筏上で作業を行っていた被災者の身体に、吊り金具が直撃して死亡し			
			た。			
2012	10	6	のり採苗場において、被災者は同僚が運転するフォークリフトのフォークに	222	1	10
		～	乗り、場内に張っている高さ3～4mの日よけ網を直そうとしていた			～
		7	際、1.7mのフォーク上から体勢を崩し、頭からコンクリート床に墜落し			29
			た。			
2012	10	9	被災者はホタテ漁のためホタテ漁船に乗り、「八尺」と呼ばれる爪付きのけ	239	10	50
		～	た網を海中に投入する作業に従事していたところ、八尺のチェーンに足が			～
		10	引っ掛かり、八尺と共に海中に転落した。乗組員に救助され病院に搬送され			99
		10	たが、死亡した。			
2011	1	10	いけすのハマチの数を数えるため、タモでハマチをすくい、選別機まで運ぶ	163	7	1
		～	作業中、タモにロープを結び支柱と滑車を介し、巻取りローラーで巻き取っ			～
		11	ていたところ、巻取りローラーの操作していた被災者の右腕が巻取りロー			9
			ラーとロープに巻き込まれた。被災者は、腕の筋を切断し、切断した筋を接			
			続するため病院に入院していたが、19日後に突然死亡した。			
2011	5	17	被災者は、漁獲船で獲れた漁獲物を輸出するため、漁獲物を冷凍運搬船へ転	215	7	50
		～	載する業務に立ち会っていた。漁獲物転載中、冷凍運搬船の荷役機器のブー			～
		18	ムが落下し、ブームの下敷きになり死亡した。			99
2011	3	13	漁港の沖合約3キロメートル付近でスクーバ式潜水器具を用いて潜水し、ナ	713	10	10
		～	マコを採取する作業に従事していた被災者が、浮上予定時刻を経過しても浮			～
		14	上してこなかったため捜索したところ、翌日水深約30メートルの海底付近			29
			で発見されたが、死亡していたもの。			
			車エビ養殖場において、被災者は潜水器を着用し、養殖池に潜りゴミ取り作			

2010	9	10 ～ 11	業を朝から1人で行っていた。約90分後、被災者の姿が見当たらないことに気付いた同僚が養殖池を見回ったところ、被災者が使用していた船外機に掛けられたはしごに引っ掛かり、養殖池内で沈んでいる被災者を発見し、病院へ搬送したが死亡が確認されたもの。被災者は潜水士免許を所持していなかった。	713	10	～ 9	1
2010	6	8 ～ 9	小型船舶（0.9t）に乗り養殖いかだを移動しながら当該いかだの見回り及び清掃作業を1名で行っていた被災者が、養殖いかだより80m程離れた岸壁に流された当該小型船舶側面の海底に沈んでいたもの。目撃者はいないが、養殖いかだに係留していた小型船舶が見回り中に流されたため、泳いで取りにいったものの船上に上がれず、救命胴衣を着用していなかったので力尽きて溺れたとみられる。	713	10	～ 99	50
2010	6	7 ～ 8	被災者ほか労働者3名により、沖合で魚を入れる網を養殖筏内に設置作業中、養殖筏と船舶に係留していたロープが切断し、被災者が落水した。この際、養殖筏につかまっていた被災者が、波で揺り戻された船舶の側面にあるタイヤ（緩衝材）と養殖筏との間にはさまれ、死亡した。	239	7	～ 9	1
2009	10	14 ～ 15	台風の影響により、事業場の銀鮭養殖場周辺の水路等の水位の上昇等に対応するための作業を行っていた被災者が、同日行方不明となり、翌日に事業場内を流れる水路の下流地点において遺体で発見された。	713	10	～ 9	1
2008	1	9 ～ 10	海上に設置された魚類（ブリ）の養殖場において、作業員4名で生簀の中のブリの約半数を別の空生簀に移しかえる作業をしていた。3名が海上から、1名が潜水作業により生簀の中に捕獲用の網を設置していたところ、海上で作業を行っていた作業員が、潜水作業員の呼吸の泡が出ていないことに気づき、海面から潜水作業員の様子を確認したところ、生簀の底あたり（深さ約6m）に仰向けになり沈んでいるのが確認された。	713	10	～ 9	1
2008	12	8 ～ 9	被災者は、海面に浮かべた作業台で養殖カゴを運び出す作業を一人で行っていた。帰りが遅いので同僚が様子を見に行ったところ、うつぶせで海面に浮いている被災者を発見して病院に搬送したが死亡した。なお、被災者が浮いていた付近の水深は、約50cm程度であった。	713	10	～ 29	10

		4	上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。			9
2008	4	3 ～ 4	湾内で養殖ホタテ貝を採取した漁船（5.1t、船長は事業場の代表者）が、乗組員8名（代表者を含む）を乗せたまま行方不明となり、災害発生当日、海上で1名、後日、海底に沈んでいた船内で1名、海中で4名、海上で2名が発見され、それぞれ死亡が確認された。	239	18	1 ～ 9
2007	11	10 ～ 11	被災者ら8名（含船長）は、漁船で午前6時頃、漁港を出港し、20分後に漁場において鮭定置網の撤去作業を開始した。その後、沖網部分の作業を終え、中網部分へ船を移動後に作業を開始しようとしたときに、被災者が行方不明だったことから捜索したところ、海面に浮いている被災者を僚船が発見し、帰港後、救急搬送したが死亡した。	239	10	1 ～ 9
2006	12	8 ～ 9	魚の粉碎機に冷凍イワシを投入している際、投入口に入り、粉碎機の刃に巻き込まれた。	162	7	10 ～ 29
2005	2	8 ～ 9	小型船（3トン）で出港した後、海中に転落した。	239	10	1 ～ 9
2004	4	9 ～ 10	海老養殖場において、えさの状況を確認するため、酸素ポンベを使用して潜水作業を行っていたところ、おぼれた。	713	10	1 ～ 9
2004	1	14 ～ 15	養殖いかだで網の手入れを終え帰港中、漁船と衝突後転覆し、海に落ちた。	239	18	1 ～ 9
2004	1	14 ～ 15	養殖いかだで網の手入れを終え帰港中、漁船と衝突後転覆し、海に落ちた。	239	18	1 ～ 9
		9	単独で小型漁船を操作し、沖にある養殖場へ、空のいけすを曳航していたと			10

2004	6	～ 10	ころ、船の動揺により海に転落した。	239	10	～ 29
2004	12	5 ～ 6	カキいかだでの作業を終え、約100m航行したところで、漁船前方でカキの網の針金を切断していた被災者が海中に転落した。	239	10	～ 29
2004	5	17 ～ 18	養殖池のアマゴを網ですくい上げ、大小の選別作業中、養殖池に転落した。	713	10	～ 9
2004	10	10 ～ 11	台風で、流されたカキ養殖用いかだの下に入り込んだ浮き灯台から、カキ養殖用いかだを引き離す作業を、当該養殖用いかだ上で行っていた被災者が行方不明になり、翌日海中で溺死しているのが発見された。	391	10	～ 9
2004	10	21 ～ 22	用水路において、台風による増水に備えた特別な措置を通常措置に戻す作業に従事していたところ、誤って川に転落した。	713	3	～ 9
2003	9	0 ～ 1	深度20～25mの海底で、サザエ漁業を行い船上に上がったところ、気分が悪くなり病院に移送されたが死亡した。	714	12	～ 9
2003	8	11 ～ 12	養鰻場で3台の給水機（3.7kW、200V）で池の洗浄作業中、同僚が給水機の間に尻餅をついてステンレスの縁台部分にもたれかかるように座り込んでいるのを発見したが、既に意識がなく心肺停止の状態であった。（給水機のコードの一部が破損し、素線が露出していて右脇周辺や頸部に強い火傷の痕があったので感電死の疑い）	351	13	～ 9
2001	1	7 ～ 8	鱒釣場で川面に1cm程度の氷がはっていたため作業員3名でとび口により氷を割る作業をしていたところ、1人が川岸(岩場)から川(水深約2m)に転落し、対岸の作業員が5分～10分後に駆け付け引き上げたが意識はなかった。	713	10	～ 9
1999	10	10	ひらめの養殖水槽において、ひらめの死骸を除去するため水槽(水深60cm、水温23度)内に入ったときに転倒し、着用していた胴付長靴に海水が入り溺	419	10	～

		11	れた。			9
1999	5	0 ～ 1	真珠貝の養殖に使用する人工芝ネットを作業場内の棚に仮置きし、棚に立てかけられた移動はしごから降りるときに、はしごから足を滑らせて後ろ向きに墜落した。	371	1	10 ～ 29
1999	3	10 ～ 11	マグロ養殖の生け簀の枠組みに使用していた鋼管6本をフォークリフトで吊り上げて、移動中、荷が天秤にならないよう支えていて、フォークリフトの右前車輪に巻きこまれた。	222	7	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。